

# 人間発達学科初年度生の期待と満足 新入生調査報告

伊藤 武彦

1995年4月、和光大学では人文学部人間関係学科を、改組・発展させて、人間関係学部として人間関係学科と人間発達学科の2学科が新しくスタートした。人間発達学科は、人間の受胎・誕生から死に至るまでの生涯における成長と発達の過程を視野に入れ、生涯の各段階の活動と発達の課題を追究するべく、「生涯発達コース」と「教育文化コース」の2コースから成っている。また、人間関係学部の学科として人間に関わる諸科学や諸問題を自由に選んで学べることは、旧・人間関係学科から引き継いだ特色となっている。

新しい学科の教育に参加するのは教員も新1年生も同時である。充実した教育カリキュラムを創造・発展させるため、教員の考え方だけでなく、学生がどのような意識を持って大学に入學し、授業その他の大学生活を送ろうとしているのかを知ることが大切であると考え、学科の教員会議で、学生の意識調査を行おうという合意が得られた。本報告は、学科で作成し、検討した調査の概要を紹介し、筆者なりの視点でまとめてみたものである。

95年4月の人間発達学科の第1期入学生は133名であった。新しい学科として発足するにあたり入学者がどういう意識でこの学科に入学し、大学生活にどのような希望を持ち、どのような大学生活を送りたいか等を初めに調査したいと考えた。また、そのような意欲に燃えた新一年生がほぼ一年間経って大学生活に対してどの程度満足しているのか、あるいは期待がどの程度裏切られたのかについて調べることも新学科の今後の発展に重要だと考えた。このような問題

いとう たけひこ 本学部助教授

意識から本報告は新学科一年生を対象にして、学科のオリエンテーションやプロゼミの時間に質問紙調査を実施し、その新しい学生の意識について調べることを目的とする。

## 方 法

### 被験者:

被験者は95年度入学の人間発達学科（D学科）1年生である。133名のうち1回目の回答者は128名(96%)、2回目の回答者は102名(77%)であった。両調査の比較のために、両方に回答した101名分(76%)の資料を分析対象とした。内訳は男40名、女61名である。

### 調査の実施

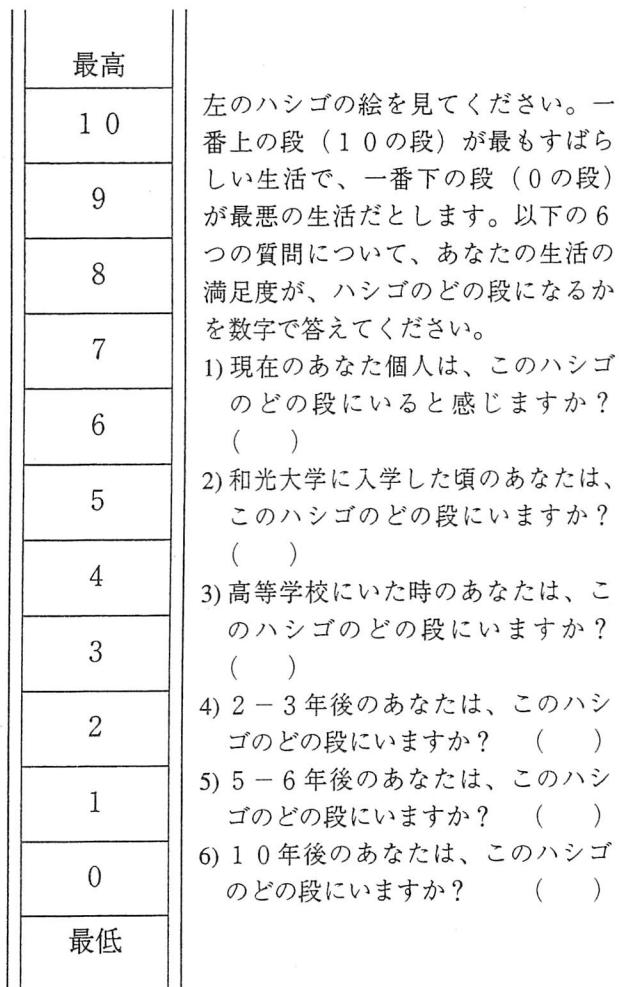
質問紙調査を95年4月（入学時）と96年1月（1年後）の二回にわたって行った。

第1回目の質問紙を【付録1】に示しておく。まず、(a)和光大学への入学の希望、大学や学科に入ってよかったですと思っているかを聞き、次に(b)大学でやりたい活動や目標について7項目聞き、さらに(c)興味のある進路や将来につきたい仕事について尋ね、自由記述で(d)勉強したいこと、(e)大学に期待すること、(f)あなたの夢、(g)他に受験した大学・学部・学科名を答えてもらった。

第2回目の調査項目は、大学生活1年間の満足度を、入学時の期待についての質問と対応する項目で(a)入学後の学生生活の満足度と(b)大学での活動や目標達成の満足度について聞き、また、第1回目と同じ形式で(c)興味ある進路や将来つ

きたい仕事についても尋ねている。さらに第2回目の独自の項目として、対象学生の時間的展望（都筑,1994）をハシゴ評定法によって聞いた。

ハシゴ評定法はCantril (1965; Kilpatrick & Cantril,1960)によって自己投錨尺度として考えられたものである。白井(1996)は時間的展望研究のうちの投影的方法として紹介している。具体的には、次のように6項目について聞いた。



## 結果

### 第1期入学生の満足度・期待と1年後の満足度との比較。

図1-1(a)(b)に和光大学に入学してよかったですどうかを聞いた項目の回答の結果を示す。人間発達学科に入学してよかったかという問い合わせには入学時（図1-2(a)）には約3/4が満足していると答え、1年後（図1-2(b)）には満足度が約75%から約80%

前後まで増加しているというのが特徴である。図1-3(a)のように、入学前に新学科に入学したいという希望は約3/4が「強かった」「非常に強かった」と答えていた。しかし、図1-3(b)のように、後輩にも新学科を勧めるのは約半数であった。

図1-1(a). 和光大学に入学してよかったです（入学時）

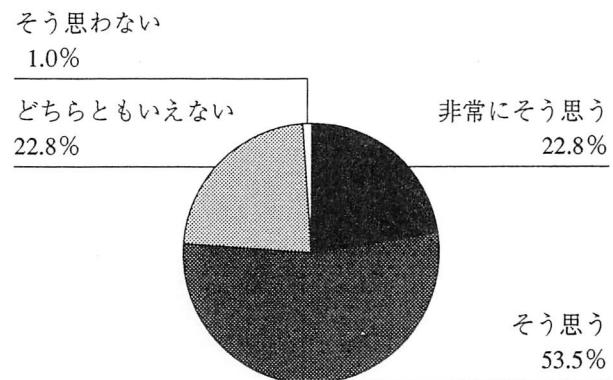


図1-1(b). 和光大学に入学してよかったです（1年後）

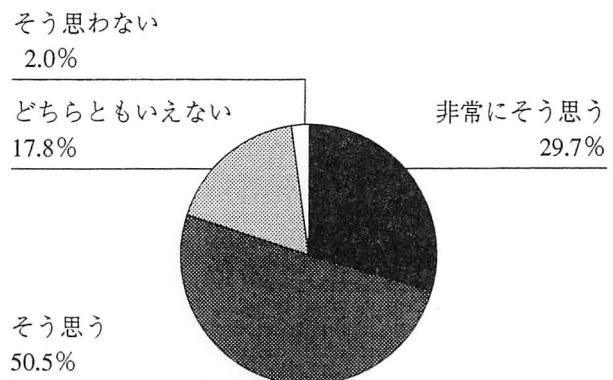


図1-2(a). 人間発達学科に入学してよかったです（入学時）

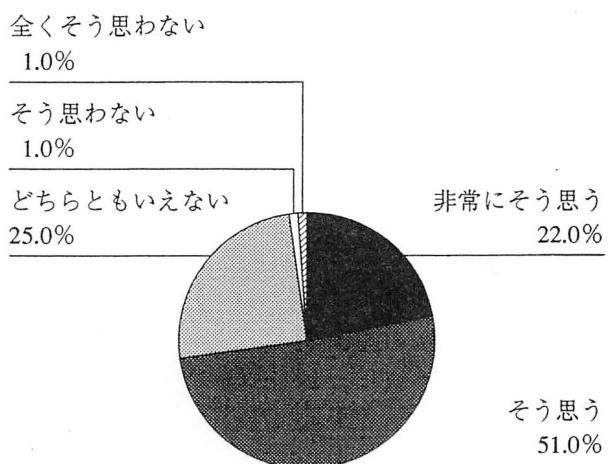


図1-2(b). 人間発達学科に入学してよかったです (1年後)

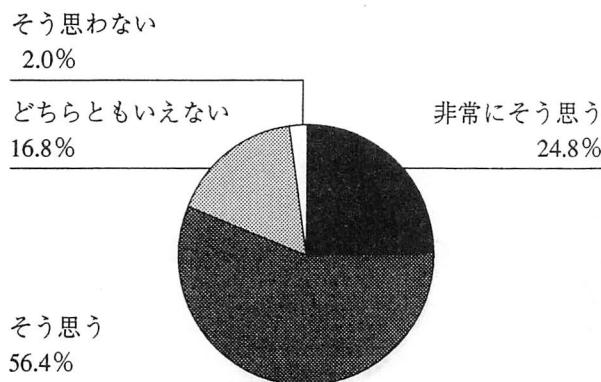


図1-3(a). 入学前、人間発達学科に入学したいという希望

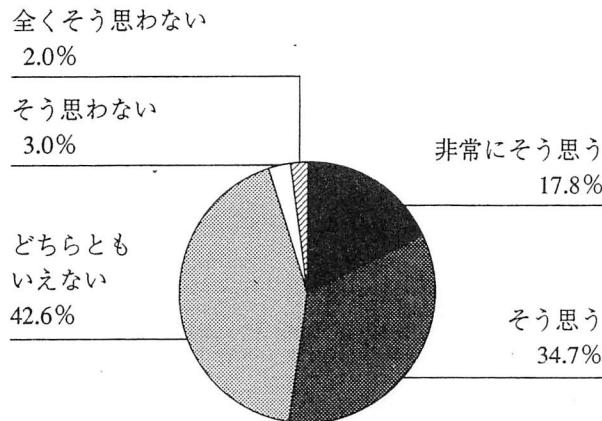


図1-3(b). 後輩に今の学科への入学を勧めるか

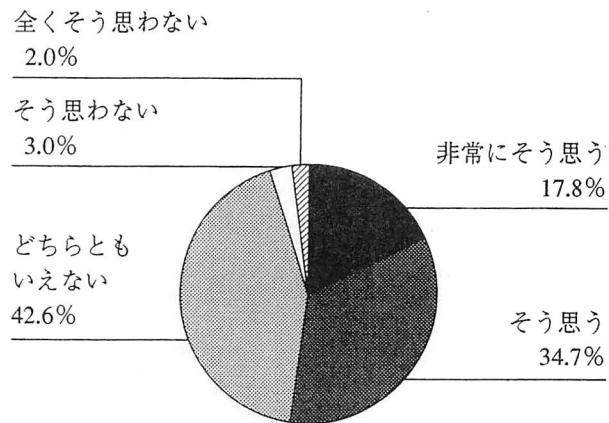
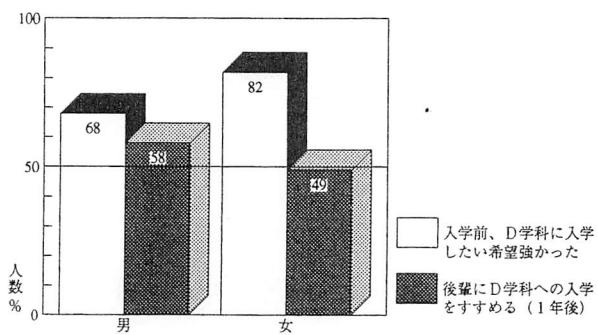


図1-3(c). 男女別、時期別のD学科への期待



### 男女別、時期別の満足度

図2-1～4に男女別、時期別の満足度を示した。図2-1に見られるように和光大学入学に関しては性差と時期の差はなかった。しかし、新学科入学の満足度（図2-2）は入学時は女子が男子学生より高かったが一年後には差が縮まるという傾向があった。大学入学は良かったし新学科に入学して良かったと、そして大学生活は楽しいと考える学生が全体の約75%前後を占めている（図2-3）。しかし一年間の学生生活に満足しているのは女子の方が男子よりも満足度が高い傾向にある（図2-4）。また一年間受けた大学の授業に満足しているのは全体の約4割である。

入学試験が推薦制入試（和光高校出身11人、他21人）か学科制入試（69人）だったかで入学時の満足度を比較すると、推薦制（非和光

高）>推薦制（和光高）>学科制の順に満足度が高かった。群間に有意差が見られたのは、入学時の設問のうち「大学入学前に入学したいという希望」、「人間発達学科に入学してよかったです」、および1年後の設問「人間発達学科に入学してよかったです」、「後輩に今の学科への入学を勧める」の各項目であった。

### 入学時の期待と、1年後の満足度の度合いの男女別比較

図3-1～7は7項目の分野について入学時と一年後の満足度の度合いを男女別に示したものである。図3-3に見られるように、幅広い教養については9割が期待を持ち、約1年後に1/3が満足している。図3-4クラブ、サークル活動は約75%が希望しているが実際に満足したのは男子が35%女子

人間発達学科初年度生の期待と満足－新入生調査報告

図 2-1. 男女別、時期別、満足度

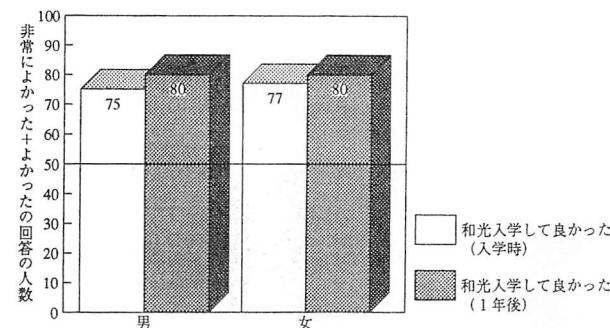


図 3-1. 入学時と1年後

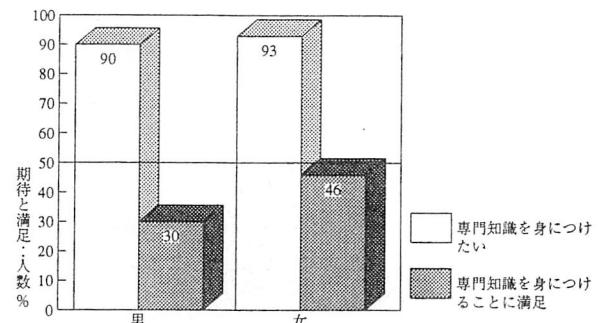


図 2-2.

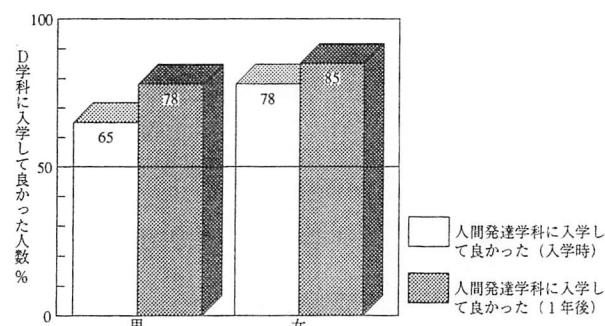


図 3-2. 入学時の期待と1年後の満足度

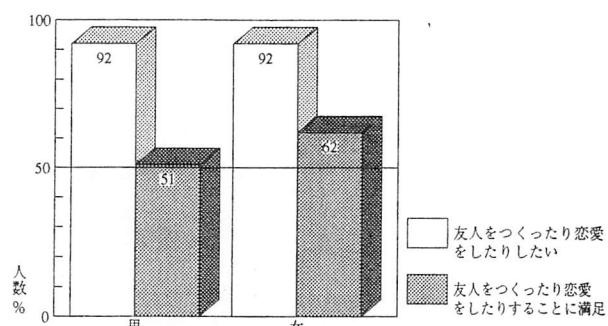


図 2-3. 男女別、満足度（入学時）

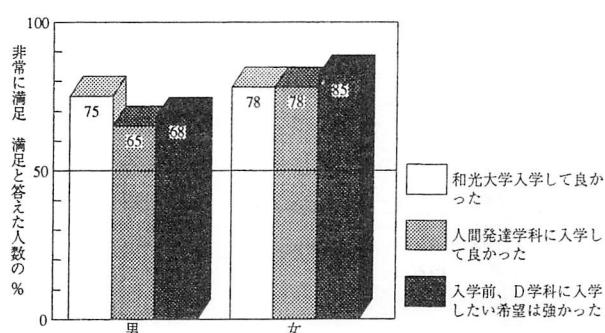


図 3-3. 入学時の期待と1年後の満足度

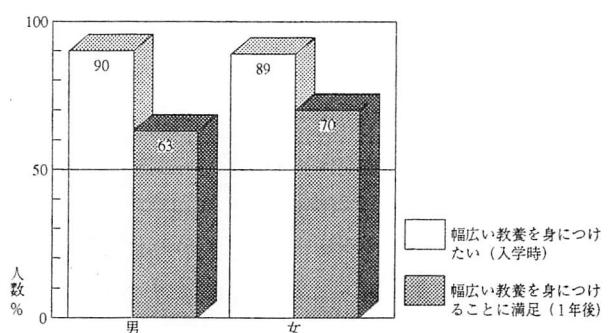


図 2-4. 男女別、満足度（1年後）

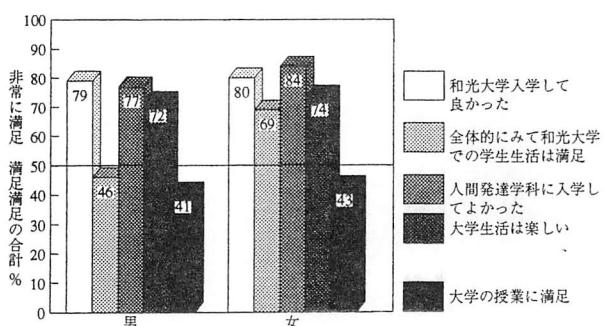


図 3-4. 入学時の期待と1年後の満足度

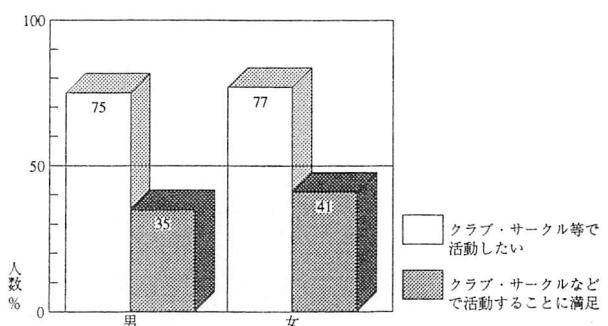


図3-5. 入学時の期待と1年後の満足度

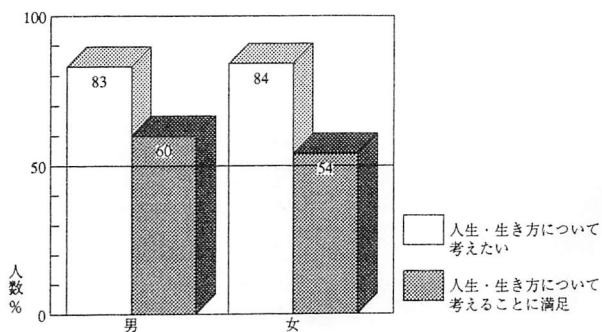
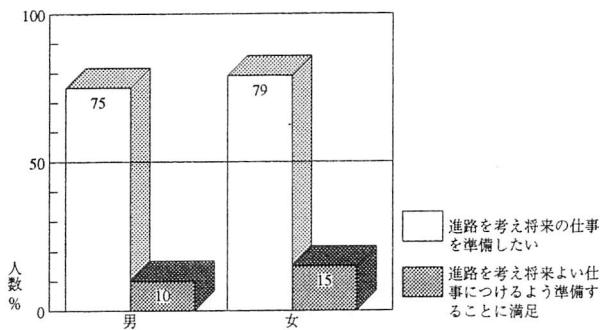


図3-6. 入学時の期待と1年後の満足度



が41%であった。図3-5のように人生、生き方を考えるは8割以上が期待していて、半分以上が満足しているといえる。図3-6からは進路を考え職業準備は3/4が期待しているにもかかわらず満足度は10-15%と低かった。これは1年生の時期であるためそのような活動が行われていないためだと思われる。図3-7は特技、資格についてである。特技と資格の準備については5-6割の期待で相対的に低く、また満足度も15-17%と低いものであった。今後の追跡調査が必要な項目であろう。

#### 職業についての興味や関心

「興味ある進路や将来つきたい仕事」(複数回答)について入学時の人気の高い順に、1年後の変化まであわせて示すと、カウンセラー(53%→41%)、福祉関係(39%→36%)、教育関係(38%→29%)、教師(26%→27%)、研究者(24%→27%)、公務員(23%→28%)、医療関係(16%→22%)、保母(9%→17%)、語学を生かした仕事(9%→13%)、会社員(8%→12%)、コンピュータ関係(4%→7%)、

図3-7. 入学時の期待と1年後の満足度

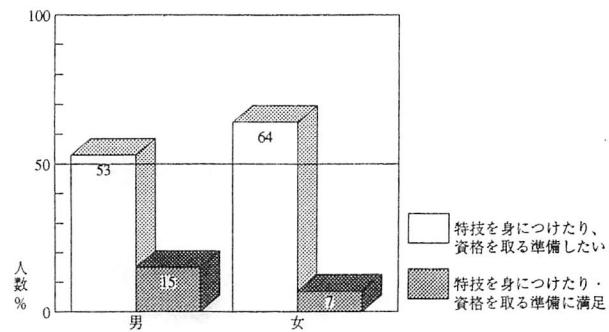
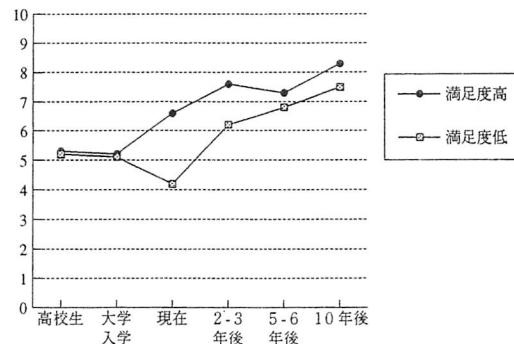


図4. ハシゴ評定法による人生のイメージ



会計関係(1%→0%)となっている。全体で関心が一番高いのがカウンセラーであり全体の約半数以上が興味を示したが、1年後の減少も一番大きかった。次に福祉関係であり教育関係、公務員、教師、研究者と続く。会社員・コンピュータ・会計関係などは、比較的関心が低い。このように、教育・福祉関係にたいする専門的・職業的な関心が強いのが本学科新入生の特徴であるといえる。

#### 過去、現在、未来の生活の人生のイメージ

ハシゴ評定法による自分の現在、過去、未来のイメージの良さの度合いをみると、101名の平均では、高校にいた時が5.0、和光大学入学時が5.3、現在が5.7、2-3年後が7.1、5-6年後が7.4で、10年後が8.1という結果であった。全体的にみると、過去と現在の評定が同じで未来が高いという結果になっている。

次に、満足度の高い学生と低い学生との間で、「人生のイメージ」の違いがあるかどうかをみる

ために、1年後調査の(a)の満足度6項目の平均得点が2.0未満の24名を満足度高群、平均得点が2.5より大きい24人を満足度低群として各時期の平均値を比較すると(図4)、現在の時期( $t=4.74$ ,  $df=48$ ,  $p<.01$ )と2-3年後の時期( $t=2.35$ ,  $df=48$ ,  $p<.05$ )の評定値に2群間で平均値の差があった。すなわち、学生生活の満足度が高い場合、現在と在学中の近い未来について、満足度の低い学生よりも、より肯定的な意味づけをしているといえる。しかし、過去についてと卒業後の未来の時期については、人生の相対的なイメージの2群間差はなく、過去よりも未来について、両群の1年生とも、より肯定的なイメージを持っていることが明らかになった。

### 満足度の構造

2回目調査では、学生生活の満足度について、いくつかの項目で答えてもらったが、このうちの10項目を指標にして、学生の満足度の構造について調べてみた。10項目の相関関係を表1に示す。

表1の相関行列に示されるような関係を、満足度の分野の面から「人間関係の満足度(RELATION)」と「学問的・知的満足度(INTELLECT)」の2種類の潜在変数(因子)を仮定し、満足の対象という観点から「学科・授業の満足度(SATISFIED DEPT)」と「生活の楽しさ・

満足度(SATISFIED LIFE)」の2種類を仮定し、観察変数9項目、潜在変数4個で、共分散構造分析をおこなった。モデル構成と計算にはAMOS 3.51(Arbuckle1995)を用いた。他のモデルと比較して、説明に無理が無く、また高い適合度指標を得られたモデルを図5に示す。GFI=.920, AGFI=.856,  $\chi^2/df=1.566$ と、まずまずの適合度を得ることができた。

潜在変数間の関係に着目すると、「人間関係の満足度RELATION」から「生活の楽しさ・満足度SATISFIED LIFE」へは直接効果のパス係数は.82、間接効果も合わせた総合効果が.47であった。また、「人間関係の満足度」から「学科・授業の満足度SATISFIED DEPT」に対しては直接効果は0であったが、「学問的・知的満足度INTELLECT」を経由した間接効果(.41)があるので無関連とは言えない。「学問的・知的満足度」から「生活の楽しさ・満足度」への影響指標では直接効果が-.72と負の値になったが、間接効果の値の合計の方が大きく、総合効果が.43となった。「学問的・知的満足度」から「学科・授業の満足度」に対しては直接効果のみでその指標は.83と大きかった。

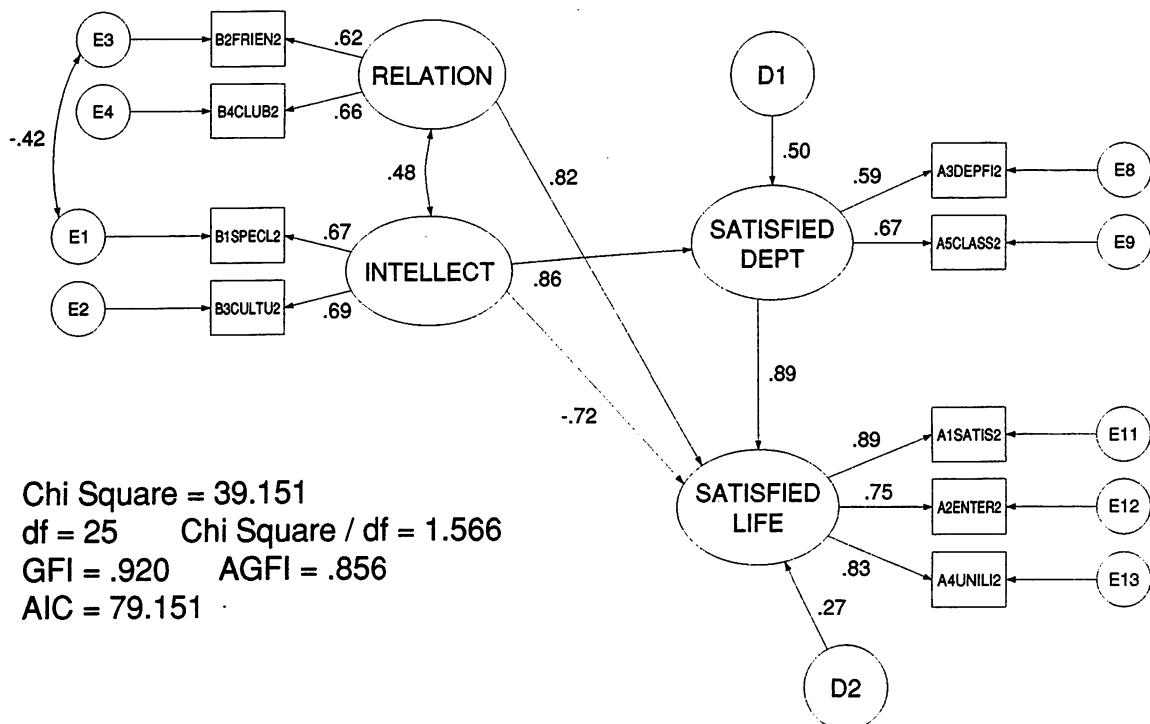
この結果から、学生の生活の満足度の構造として、学業と授業に関する満足度と大学生活全般に関する満足度とは相対的に区別しうるものであることが解った。また、「生活の楽しさ・満

表1 調査2の満足度9項目の相関行列

	A1SATIS2	A2ENTER2	A3DEPF12	A4UNILI2	A5CLASS2	B1SPECL2	B2FRIEN2	B3CULTU2	B4CLUB2
	大学生活	大学入学	学科入学	生活楽し	授業満足	専門知識	友人恋愛	教養	サークル
A1SATIS2	1.00								
A2ENTER2	.69**	1.00							
A3DEPF12	.47**	.49**	1.00						
A4UNILI2	.73**	.60**	.34**	1.00					
A5CLASS2	.29**	.24*	.38**	.33**	1.00				
B1SPECL2	.17	.20*	.23*	.10	.46**	1.00			
B2FRIEN2	.52**	.42**	.28**	.57**	.14	-.09	1.00		
B3CULTU2	.29**	.30**	.24*	.37**	.49**	.44**	.24*	1.00	
B4CLUB2	.49**	.37**	.16	.51**	.10	.17	.41**	.29**	1.00

\* $p<.05$     \*\*  $p<.01$     n=101

図5 人間関係、学問、学科・授業、生活の楽しさの4つの満足度の相互関係



足度」から「学科・授業の満足度」への因果関係の母数を推定するモデルでは解が収束せず、モデルのあてはまりがよくないことが示された。このことから、授業や学科に満足している人は学生生活全般にも満足している傾向にあるが、逆に大学生活に満足しているからといって必ずしも授業・学科に満足しているとはいえないということが示唆された。

## 考 察

### 新入生の期待と1年後の満足度

入学時には和光大学および新学科に対する期待は極めて高い。その期待は因子分析の結果によれば大きく分けて三つの分野に分けられる。一つは学問に対する期待である。もう一つは友人関係への期待である。そしてもう一つは、職業・資格という将来の職業展望に関する期待である。これらの三つは相対的に区別し得るものである。このような三つの期待の構造に対して一年後にそのような期待がどのくらい満足を得

ているか、というようなことを見ると、1年生の終わりの頃の学生生活に対する満足度は大きく二つの因子に分けることが出来ることがわかった。ひとつは友人関係と生活全般の満足度である。もう一つが専門教養、職業的な分野での満足度である。このように、入学の前は学問への期待と職業資格などへの期待が別れているが、入学後その二つが一つの統合されたものになっているということが明らかになった。

下山(1995)によれば、学業に対する意欲低下と授業に関する意欲低下は関連が見られるが、それら2つと大学生活全般に関する意欲低下との間は、関連が見られなかった。本研究でも、全般的な学生生活面での満足度と学業面での満足度が相対的に区別できる結果となっており、下山(1995)の結果を、いわば裏側からあとづける結果となっている。

### 満足度の高い学生と低い学生の時間的展望

人生のイメージを11段のハシゴにたとえて人生における各時期がどの辺りに位置するかの結果では、満足度の低い学生が、現在と在学中

の未来（2-3年後）の2時点についての高い学生と差があることが見いだされた。これは、当然の結果といえるが、現在を起点にして未来のイメージを比較すると満足度の高低に関わらず肯定的な未来への時間的展望を持っていた。満足度の低い学生の方が、グラフの上向きへの傾きが大きい。本研究の対象の学生は満足度の高低にかかわらず全体的に未来志向であるが、満足度の低い学生はやや過去志向の傾向もあると言えよう。都筑(1993,1994)は時間的展望と自我同一性の関係を検討し、同一性拡散地位にある学生は現在・未来のイメージが過去よりもネガティブにとらえている傾向があることを明らかにした。本研究では、現在のイメージよりも未来のイメージが暗い学生が少なかったことを明らかにしている。このような学生の時間的展望が、大学卒業までにどのように変化するのかを明らかにするのは今後の課題したい。

#### 新学部・新学科としての出発に当たって

和光大学では、さまざまなカリキュラム改革の工夫が開学当初よりおこなわれてきており、また教員相互の授業研究も盛んである。和光大学授業研究会(1996)が授業参観によって授業を検討し学生のための授業づくりをめざしているのもその1例である。大学教員からの働きかけとして、学生の学問的・知的要求を満たす大学づくりを行うことは中心的な課題である。

それと同時に、学生生活全般が充実するためには、学生のサークル活動なども含め対人的な満足度の側面も考慮に入れた大学づくりを行って行くべきであろう。今回のような質問紙調査では、個々の学生の個人的な問題は明らかになりにくい。心理的問題を抱える学生の姿が、今回のような調査からは見えないけれども、学生生活面の援助活動が重要である事を強調しておきたい。

新入生たちは未来に対して、（それが漠然としたものであろうとも）明るい展望を持っていることがハシゴ評定法から浮き彫りにされた。また、はっきりとした職業的な志向性も今回の調査で明らかになった。そのような職業的な展望

と学生の未来を結びつけることができるような大学・学部・学科づくりの課題が求められている。（96/11/13）

#### 【文献】

- Arbuckle,1995 *Amos 3.5 for Windows.* Smallwaters Corporation
- Borter, R. W., & Hultsch, D. F. 1972 Personal time perspective in adulthood. *Developmental Psychology, 7*, 98-103.
- Cantril,H. 1965 *The pattern of human concerns.* New Brunswick, NJ: Rutgers University Press.
- Kilpatrick, F. P., & Cantril, H. 1960. Self-Anchoring Scaling: A measure of individual unique reality worlds. *Journal of Individual Psychology, 16*, 158-173.
- 下山晴彦 1995 男子大学生の無気力の研究. 教育心理学研究, 43, 145-155.
- 白井利明 1996 時間的展望とは何か：概念と測定. 松田文子・調枝孝治・甲村和三・神宮英夫・山崎勝之・平伸二（編） 心理的時間：その広くて深いなぞ. 北大路書房
- Tromsdorff, G., Burger,C., & Fuchsle, T. 1982 Social and psychological aspects of future orientation. In N. Martin, (Ed.). *Studies in Decision Making.* Berlin: Walter De Gruyter.
- 都筑 学 1993 大学生における自我同一性と時間的展望. 教育心理学研究, 41, 40-48.
- 都筑 学 1994 自我同一性地位による時間的展望の差異：梯子評定法を用いた人生のイメージについての検討 青年心理学研究, 6, 12-18.
- 和光大学授業研究会 1996 語りあい・見せあい・大学授業. 大月書店

【付録1】

新入生のみなさんへのアンケート

95/04/12 D-2

新しい学科に入学したみなさんの期待に応えた教育を行っていく参考資料にするため、質問紙（アンケート）調査へのご協力を願い致します。あなたの個人のプライバシーを問題にしたり公表したりすることは絶対にありません。思った通りのことを書いて下さい。

人間発達学科教員一同

性別（数字に○）：1男 2女 年齢：( )歳

入試で合格したのは（数字に○）： 1. 推薦制（和光高出身） 2. 推薦制（和光高以外） 3. 学科制

学籍番号：( )

A1 大学入学前、和光大学人間発達学科に入学したいという希望は？（どれかの数字に○）

1. 非常に強かった 2. 強かった 3. どちらともいえない 4. あまりなかった 5. 全くなかった

A2 現在、あなたは和光大学に入学してよかったです？（どれかの数字に○）

1. 非常にそう思う 2. そう思う 3. どちらともいえない 4. そう思わない 5. 全くそう思わない

A3 あなたは人間発達学科に入学してよかったです？（どれかの数字に○）

1. 非常にそう思う 2. そう思う 3. どちらともいえない 4. そう思わない 5. 全くそう思わない

B 和光大学でやりたいことについてお聞きします。

B1 大学では、専門的知識を身につけたいですか？（どれかの数字に○）

1. 非常にそう思う 2. そう思う 3. どちらともいえない 4. そう思わない 5. 全くそう思わない

B2 大学では、友人をつくったり恋愛をしたりしたいですか？（どれかの数字に○）

1. 非常にそう思う 2. そう思う 3. どちらともいえない 4. そう思わない 5. 全くそう思わない

B3 大学では幅広い教養を身につけたいですか？（どれかの数字に○）

1. 非常にそう思う 2. そう思う 3. どちらともいえない 4. そう思わない 5. 全くそう思わない

B4 大学では、クラブ・サークルなどで活動したいですか？（どれかの数字に○）

1. 非常にそう思う 2. そう思う 3. どちらともいえない 4. そう思わない 5. 全くそう思わない

B5 大学では、人生・生き方について考えたいですか？（どれかの数字に○）

1. 非常にそう思う 2. そう思う 3. どちらともいえない 4. そう思わない 5. 全くそう思わない

B6 大学では、進路を考え、将来よい仕事につけるよう努力したいですか？（どれかの数字に○）

1. 非常にそう思う 2. そう思う 3. どちらともいえない 4. そう思わない 5. 全くそう思わない

B7 大学では、特技を身につけたり、資格を取りたいですか？（どれかの数字に○）

1. 非常にそう思う 2. そう思う 3. どちらともいえない 4. そう思わない 5. 全くそう思わない

(1. または 2. と答えた人は特技・資格名を書いて下さい→ )

人間発達学科初年度生の期待と満足－新入生調査報告

B8 B 1－B 7以外に大学でやりたいことが（どちらかの数字に○）？ 1 ある 2 無い  
→ 1. あると答えた人に：それは何ですか？ 簡単に書いて下さい

C 次の中で興味のある進路や将来つきたい仕事があったら、いくつでも数字に○をつけて下さい。

- 1. 教師 2. 公務員 3. 保母 4. 研究者 5. カウンセラー 6. 医療関係の仕事 7. 福祉関係の仕事
- 8. 語学を生かした仕事 9. 教育関係の仕事 10. 会社員 11. コンピュータ関係 12. 会計関係

C20. 上の仕事以外にも興味のある仕事や将来つきたい仕事があつたら自由に書いて下さい

D 大学時代に勉強したいことを書いて下さい（自由記述）

E 和光大学に期待することは何ですか？（自由記述）

F あなたの夢を、書いて下さい

G 和光大学人間発達学科の他に受験した大学入試の学部・学科名を書いて下さい（大学名は書かなくてもよい）

---

---

---

ご協力ありがとうございました